



# 学校だより

平成29年12月4日

調布市立調布中学校

校長 平岡 盛仁

電話 042-482-0275

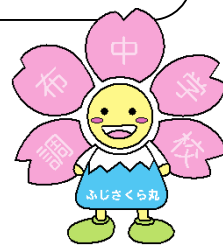
## 「心のふるさと、調布中」

11月10日（金）に、本校の開校70周年記念式典が挙行されました。式中の調布中70年間を振り返る「思い出のスライド」では、開校当時の写真や生徒の様子、昭和時代の調布中の様子、平成に入ってから調布中の様子、さらに現在の調布中の様子などが上映されました。昔の調布中の姿は、現在の生徒にはどのように映ったのでしょうか？また、参加している同窓生や地域の方々には、さぞ懐かしく思われたのではないのでしょうか。

そして全校合唱の「ふるさと」。2学期から毎週木曜日の朝、練習をしてきました。音楽祭の前にも、自分たちのクラスの合唱、学年合唱の練習と並行して、全校合唱「ふるさと」を練習してきました。音楽祭で披露した全校合唱「ふるさと」はとても素晴らしかったです。グリーンホールに喝采の拍手が鳴り止まないほどでした。その素晴らしい合唱を本番の式典でさらに心を込めて歌うことができるのか。私は、心配でもあり楽しみでもありました。「ふるさと」の合唱が始まり、私は鳥肌が立ち、「ふるさと」の合唱が終わったときには、涙も出てきました。音楽祭と同様に、合唱が終わった後は拍手が鳴り止まないほどでした。それだけ素晴らしい合唱だったと思います。そして多くの式典参加者の心にも訴えていたようです。式典後の祝賀会では、多くの方から全校合唱「ふるさと」について、「素晴らしかった。感動しました。涙が止まりませんでした。」という感想をいただきました。

調布中生のこころを込めた全校合唱「ふるさと」が、今回の記念式典を大成功に導きました。そして調布中を本当に「心のふるさと」にしてくれました。

この式典を大成功に導いた生徒の皆さん、それから周年行事の計画実施の中心になってくれました、実行委員の皆様、いつでも周年行事を応援してくださいました地域の皆様、そして当日お手伝いしてくださいました保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 校長式辞より

開校七十周年という大きな節目を向かえた調布中学校は、これから八十周年、百周年に向けて一步を踏み出しました。調布中学校は、地域の学校としていつまでもあり続けます。そして時がうつり、人が変わっても、全ての卒業生や、調布中学校に携わった教職員の方々、地域の皆様、保護者の皆様の「心のふるさと」になることをお誓い申し上げます。

## 7組が宿泊学習に行ってきました

1月16日(木)、17日(金)の2日間、7組は宿泊学習を行いました。「自分のことは自分でできるようにする。」、「マナーやルールを守る。」、「野外活動で学校ではできない体験をする。」、「仲間と協力して楽しい思い出を作る。」という4つの目標を立てて実施しました。

1日目は、オリエンテーリングを行いました。快晴のなか、山道や雑木林の中を、地図を見ながら6つのチェックポイントを周り、ゴールを目指します。距離にすると約6.5Kmです。かなり疲れたと思いますが、どの班も皆で協力



し、無事にゴールできました。宿舎内での生活も、係になった生徒が自分の仕事をしっかりと果たしていました。

2日目は、飯ごう炊飯です。火をおこし、飯ごうでお米を炊きました。それと野菜や肉を切って、カレーを作りました。どの班も役割を分担し、時間内にカレーライスができあがりしました。富士山を見ながらのカレーライスは最高においしかったです。

この2日間で、生徒はしっかりと行動でき、大きく成長したと思います。4つの目標を、誰もが達成できたと感じました。今回の経験を今後の学校生活に活かして欲しいと思います。



## 道徳授業地区公開講座を開催しました

1月2日(土)に、道徳授業地区公開講座を行いました。今年度は「いのちの授業～がんを通して」という内容で、1時間目に各教室で事前アンケートを行ったのち、ワークシートを使って各班で話し合いをしました。2時間目と3時間目は講演会です。講演会には講師として、医師の久住英二さん、がん治療を受けた経験のある阿南里恵さん、進行役としてのいのちの授業コーディネーターの川口利さんをお迎えして行いました。

始めに、医師の久住さんから、がんに罹るということは人ごとではなく自分のこととして考えていかなければならない。また、がんに罹ってもより良い生き方をするために、自分自身を大切にしなければならないというお話をいただきました。次に、実際にがんに罹り治療をした経験のある阿南さんの話でした。阿南さんは自分の経験を元に、生徒達に、「生きるとは何か? 幸せとは何か?」をしっかりと考えさせる話をしてくださいました。

今回の「いのちの授業～がんを通して」は、生徒にとって「いのちの大切さ」や「生きることの素晴らしさ」、「幸せとは何か」ということを真剣に考えるよい機会となったのではないのでしょうか。

